

## 令和 8 年度第 1 回八戸地域畜産振興ビジョン審議会 議事録

|        |                                                                                                                                                   |
|--------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 日 時    | 令和 8 年 7 月 14 日（火）14:00～15:10                                                                                                                     |
| 場 所    | 八戸市庁 議会第二委員会室                                                                                                                                     |
| 出席委員   | 加来 聡伸会長、高野 英夫副会長、中野 晋委員、畠山 敦委員、<br>佐々木 健委員、桎谷 和道委員、齋藤 優委員、小村 隆幸委員、<br>白板 大幸委員、高森 正博委員、高見 憲一委員、柏崎 勝徳委員、<br>牧野 仁委員                                  |
| オブザーバー | 木村 勉氏、館野 和久氏                                                                                                                                      |
| 事務局    | 石丸農林水産部長、久保農林水産部次長、石塚畜産林政課長、<br>石橋畜産林政 GL、深堀技査、浦島主事                                                                                               |
| 次 第    | 1 開会<br>2 委嘱状交付<br>3 案件<br>（1）ビジョン素案の作業状況と今後のスケジュールについて<br>（2）目標設定について<br>（3）第 3 章 畜産業及び畜産関連産業の振興に向けた取組について<br>（4）第 4 章 推進体制について<br>4 その他<br>5 閉会 |

### 次第 3 案件

#### ●会長

次第に従いまして、議事を進めてまいります。次第 3、案件 1「ビジョン素案の作業状況と今後のスケジュール」につきまして、事務局から説明願います。

〔事務局が資料に基づき説明〕

#### ●会長

ただいま、事務局から説明がありました件につきまして、御意見、御質問等ございましたら、お願いいたします。

#### ●委員

なし。

●会長

続きまして、案件2「目標設定」につきまして、事務局から説明願います。

〔事務局が資料に基づき説明〕

●会長

ただいま、事務局から説明がありました件につきまして、御意見、御質問等ございましたら、お願いいたします。

●委員

なし。

●会長

続きまして、案件3「第3章 畜産業及び畜産関連産業の振興に向けた取組」につきまして、事務局から説明願います。

〔事務局が資料に基づき説明〕

●会長

ただいま、事務局から説明がありました件につきまして、御意見、御質問等ございましたら、お願いいたします。

●A 委員

6ページ中段の例に青森シャモロックとありますが、今はやっていないので、抜いたほうがいいのではないかと思います。その下の田子牛、あおり倉石牛、「あおり和牛」への取組（統一ブランド）については、青森和牛の統一ブランドなのか、三点セットの統一ブランドなのかという表記なのか。田子町も頑張っていますし、五戸町も倉石牛については、2年前から青森ならではのりんごの搾りかすや地域のコンビニのコーヒールカスを食べさせている和牛として進めておりますし、去年はコンビニで売っている日経トレンドという雑誌で、2026年次来るのはこれだということで、倉石牛を載せたり、五戸町と新郷村と一緒にやっている、あおり倉石牛の推進協議会で予算をとって、るるる青森に倉石牛のページ載せてもらっています。認知度が高くないとありますが、大都市圏ではそうかもしれませんが、東北の方では頑張っているの、地域では頑張っているけど、さらに認知度を上げたいというような記載の仕方がいいのではないかと思います。

●事務局

お話しいただいた表記の件については、いただきました御意見を踏まえて、事務局の方で修正案を考えさせていただきます。

●A 委員

よろしくお願いします。

●会長

2 番の生産体制の整備・強化について、意見を徴収したいとのことでしたが、資料 3 ページ（2）飼料の安定供給体制の確保を御覧ください。こちらについて、各経営者の方々に御意見を伺いたいです。

●B 委員

飼料の安定供給ということで、自給飼料について、どのように確保しているかと思いますが、牛については、新たにトウモロコシの畑や牧草地を作るというような状況ではないと考えると、まずは公共牧場の利用実態を踏まえた上で、どうやって使っていくのかなどを検討していくというのが一つ。

農地の有効活用ということで、農水省の水田活用の交付金が来年度から大きく変わるということですが、そのようなことを見据えながら、飼料用米やWCS（ホールクロップサイレージ）について生産、利用拡大について載せていくのがいいのではないかと思います。また、国の政策も踏まえながら記載すればいいのではないかと思います。

●会長

その他、安定供給ということであれば、流通や加工、価格の問題について、現場の方々の御意見を伺いたいです。

●オブザーバー

飼料安定供給体制としては、まず、自給飼料以外は輸入に頼っている状況。港の整備をしないとこれが滞ってしまう。12 月の地震で大きなダメージを受けながらも、メーカーさんに安定供給しているという状況。まず、港を維持することが大事で、国交省に八戸市から要望しているのは国の持っている公共のものだけであり、私企業に対しては出してくれないという状況ですが、200 万トンの飼料を生産しているものが滞ってしまうのは大問題。県や国が私企業に対しても修復・工事をするような体制をとってほしい。飼料の価格が高くなっているというお話が出ましたが、八戸の港の水深を深くして、同じ船でも、もっと積めるようになれば、運賃も下がる。こういった浚渫を行えば、八戸の建設会社にもお金が落ちる仕組みになりますし、八戸市としても検討するといいいのかと思います。もう一つは、飼料については、30 万トンほど増産が可能であろうという発言をしましたが、各飼料メーカーは平均すると 170 種の飼料を作っているが、もっと効率よくしたら既存の施設でそのくらいいけるであろうという話であって、今のままだと新しい工場をもってこななければならないとか、みんなで使えるような粉碎するための工場を作るための用地を確保しておくのも、ひとつの方法かなと。そうすると飼料メーカーが 6 工場ありますが、余裕が出て、基本年中休みなしで稼働しているので、何かゆとりのあるような形で飼料コンビナートを形成していけばいいのではないかと思います。

また、輸送については、飼料メーカーで生産された飼料を畜産農家に持っていくのも

今後10年を考えると、厳しくなってくるのではないかと。運転手が半分になってしまうと言われている中で、今と同じ、もしくは生産が増えるという計画で、どうやってそれを維持できるのかを具体的にゴールをもっていかないと、ままならないのではないかとこの考えです。

●事務局

前段の港整備、浚渫、用地の確保に関して、商工労働まちづくり部で担っている部分になりますが、私どもでも確認いたします。またトラックの問題については、畜産業だけではなく、農林水産部全体の中でも、トラックの問題は課題があって、話をいただいておりますので、具体的にトラックの業界の方々ともお話をさせていただいておりますので、こういった形で一次産業を担っていくか検討させていただきます。

●会長

(2) 以外でも御自由に意見ある方はお願いします。

●B 委員

資料4 ページの持続可能な畜産業の推進について、人を確保することと輸送流通の効率化の2つがありますが、持続可能な畜産というと、もう少しいろんなことがあるのではないかとこの感じがしていて、まず人そのものの確保もそうですけど、技術を持った人を集めたあとに、技術を身に付けさせるというような項目があったほうがいいのかと思います。別な項目のところに輸出や海外と出ていますが、販路の開拓をすることで、生産量をさらに増やしていけるなど、それが持続可能な畜産業につながるというような記述。あるいは、大規模な会社経営の場合は、環境に配慮したというような畜産に取り組んでいると思いますので、そのようなものも盛り込んでいくがいいと思います。

また、4番の地場産畜産物の消費拡大について、海外市場への販路開拓とありますが、八戸圏域で考えたときに、具体的に動きがあるのかどうか、これから動きがありそうに動いていくということなのか、そういった記述もあればいいのかなと思います。

7ページの地場産畜産物の理解の促進について、理解醸成は非常に必要だと思っておりまして、県内の消費者に県産の畜産物を食べてもらうのが非常に大切で、継続的に行うべきですし、畜産バスツアーについては、後程、畜産協会からパンフレットをお配りし、お話しさせていただきます。

8ページの家畜防疫体制の向上について、豚熱感染イノシシの県内15例目が出たということですが、15例全部地域が限られており、豚熱は特に注意が必要だと思います。また、鳥インフルエンザの記述で、比較的の発生リスクが低いとされる八戸地域と書いているんですけども、根拠データがないのであれば、削除した方がいいのではないかと思います。

●会長

持続可能な畜産業の推進について、事務局から回答をお願いします。

●事務局

販路の拡大で海外としていますが、今回ビジョンに牛が入ったことで追記した方がいいのではないかとということで記載しました。実際にどこが手掛けるかなど、具体的な情報は我々も持っておりません。

また、技術を持った方、技術を教えていただく方について、具体的にイメージをつかめなかったのも、どういった技術を持った人なのかなど、もう少し教えていただけるとありがたいところでございます。

8 ページの比較的発生リスクが低いというところに関しては、もう一度精査させていただきます。

地場産品のPRを継続的にしていただきたいという御意見に関しても、しっかり記載したいと思います。

●会長

その持続可能な畜産業の推進に関して、環境配慮、保全等の項目も入れたらどうかという話もありましたが、その点はどうでしょうか。

●事務局

そちらも入れるように検討いたします。

●A 委員

牛のためにと言ったが、牛のためになると難しいと思っていまして、国内の大都市圏で頑張ってからではないと生産者も大変だと思います。牛のためであれば、控えた方がいいと思います。

●オブザーバー

ちなみに牛の場合は、宮崎牛が東南アジアに輸出されていますけれども、あれも地方自治体の方々が10年くらいかけて、輸出したいという強い思いで進めて、やっとの思いで輸出しているものの、輸出量としてどれくらいかというと、わずかなものです。

●A 委員

青森県は飼育頭数もあまりないので、今回は伏せた方がいいのかなと思います。

●事務局

これは八戸のイチカワファームや西村牧場などで、飼育頭数は多くないかもしれませんが、県内の若手生産者で、インターナショナルファーマーズブランド協議会を立ち上げて、会長はイチカワファームの社長がやられているんですけれども、すでに実績があるということもあり、それを踏まえて記載しているところです。

●会長

実績というのは、この方々は輸出をされているということですか。

●事務局

量は少ないが、そう伺っております。

●A 委員

個人ではできるかもしれないが、公共では難しい。

●オブザーバー

地場産の地産地消は非常にいいことだと思いますが、具体的なゴールが見えてこないです。どれだけの畜産物ができて、どのくらい消費していて、ゴールはどれくらいなのか。人口減少しているのに、地場を増やしていきましょうと言っても、スーパーを見ても、豚肉の半分くらいは輸入品ですし、具体的に数値で落とし込んでいかないとけないと思います。

●事務局

畜産だけ見ると、そのようなお考えになるのかもしれませんが、自治体の一次産品の販路拡大の観点で見ていくと、農業も水産も地場消費を拡大させつつ、首都圏等へ売り込んでいきたいと思います。両輪で進めている観点から、項目として入れるべきだと思っていて、仰るように数値的に示そうとすると厄介であることは事実だと思います。ただこれはビジョンであり、あくまでこのような姿勢で進めていきますということで市としては、一次産品として進めていくこととして記載したいと思います。

●会長

地域理解とも関連してくると思いますので、私も記載に関しては必要かと思います。

●オブザーバー

家畜排せつ物について、いろいろと難しいというのは理解しておりますが、バイオマスの一つであるバイオメタンであれば、今までトライしてできなかった農家さんもいるが、市としてはサポートしていきますよという形で追記してみてはどうでしょうか。なぜかという、八戸市の場合はエネオスさんやLNGがあつて、LNGは家畜排せつ物から出たメタンをタンクの中に入れることはできるので、それをここで消費できて、循環型に繋がっていくのではないかなと思っています。

●事務局

以前、エネルギー関係の部署にいた時に、当時は技術的にメタンは効率やコストが悪かったのですが、現時点での技術を調べなおして検討させていただきたいと思います。

●C 委員

もしバイオマスメタンができると、二酸化炭素排出抑制にもつながり、環境にやさしいとか、名前のブランディングというよりは、数値で裏打ちされた環境にやさしいものとしていけるのかなと伺っておりました。ただ設備投資するとかなり大きなものが先にできてしまいますので、一つの地域振興策として見てもらえるのであれば、戦略的だと思います。

飼料の安定供給体制の確保については、八戸市は予測されている地震もあり、グレーンターミナルさんも飼料メーカーさんも近くにありますが、カムチャツカ半島沖の地震の際は警報解除の目途が立たず、餌がいつ来るかもわからない、場合によっては井戸がおかしくなり、その対応をしていた状況でしたので、インフラ整備の優先順位を高めていただけるとありがたいと思いました。九州では志布志市から都城市までの高規格道路が作られていて、エサを切らさないように、地域の方に迷惑をかけないようにされていたのを目の当たりにすると、この辺りは45号線も通過が大変ですし、運転手の拘束時間の問題も出てきているので、飼料のトラックに関しては有料道路を無料で通れるようにするとか、規制があった時でも通行はできますとか、支援がいただけると嬉しいなと思う時がありました。

●会長

今日、震災のニュースで防災庁ができるという話もありましたが、この地域の災害対策を考えていかなければいけないなと思いました。

●会長

続きまして、案件4「第4章 推進体制」につきまして、事務局から説明願います。

〔事務局が資料に基づき説明〕

●会長

ただいま、事務局から説明がありました件につきまして、御意見、御質問等ございましたら、お願いいたします。

●B 委員

審議会にすることで何かメリットがあるのかを伺いたいです。

●事務局

審議会を各年度1回開きたいということで説明申し上げましたけれども、御審議をいただくことで、継続的に議論して、皆さんに数値をお示しして管理していきたいというところでございます。比較してメリットということではないですが、審議会で決めたものを審議会で報告して、進捗管理していくということです。

#### 次第4 その他

●会長

それでは、最後のその他としまして、委員の皆様から何かございませんか。

●B 委員

見学バスツアーのチラシをお配りしておりますが、畜産協会で今年から、青森県と中央畜産会の受託事業で、理解醸成のための事業を行うこととしておりまして、内容とし

ては、7月28日、酪農・畜産に興味のある県内の高校生を対象にバスツアーを開催します。見学先は野辺地の酪農農場のNAMIKIデリーファーム、写真にありますとおり、ロータリーパーラーを見て、皆様行かれたことがあるかと思いますが、七戸町の手作りジェラートNAMIKIに行き、ジェラートと昼食が出る見学ツアーです。集合場所は青森駅と八戸駅の2カ所から出発する形にしております。参加料は無料で、裏を御覧いただきまして、バスツアーの行程がありますが、8時に出発をして、14時30分にはそれぞれの駅で解散ということになっております。申込み方法ですが、QRコードからフォームで申し込むか、メールからの申し込みとなります。申込み期限は来週の21日までになっておりますので、皆様方は親戚や職場でPRしていただければと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

●会長

高校生のみ参加ということでしょうか。大学生は。

●B委員

高校生のみとなっております。ちなみに、同じ内容で小学生の親子が対象のものもあるのですが、夏休み期間中ということで、すぐに予約が埋まってしまっていますが、高校生の方はまだ余裕があるということで、今回紹介させていただきました。

●B委員

資料3の飼料の安定供給の確保について、公共牧場の実態調査や水活の関係で各市町村の調査の上で何か見えそうであれば今後使っていくのか、今後含めていくのかの確認をさせていただきたいです。

●事務局

公共牧場の広さやどのように使われているのか分からないので、一旦照会だけはさせていただいてもよろしいでしょうか。実態が分からないので、どのように記載するのか等、アンケートでの照会をさせていただければと思います。

●会長

それでは、本日の議事は終了いたしましたので、進行を事務局にお返しいたします。